

| | | | | | | | | |
|------|------------------------|-------|-------|----|------|---------------|-------------|-----|
| ジャンル | 子ども・教育 | 日本語学習 | 医療・福祉 | 労働 | 災害対策 | 意識啓発 地域づくり | 推進体制の 整備 | その他 |
| 事業名 | 「こまがね日本語教育システム」構築・運用事業 | | | | | | | |
| 団体名 | 駒ヶ根市 | | | | | | | |

***** 事業のポイント *****

- 日本人と外国人との円滑な市民生活を創出するための効果的な日本語学習が、市民により継続的に運用できる「駒ヶ根市 日本語学習システム」を市民と協働で構築
- 駒ヶ根市における日常生活をテーマにしたオリジナルの授業を、外国人の日本語のレベルに合わせて展開
- 外国人の生活の質やボランティアの日本語教授のスキルはもちろん、市民の課題解決力もアップ

| | | | |
|------|-------------------------|------|--------|
| 助成年度 | 平成 23 年度地域国際化施策支援特別対策事業 | 事業総額 | 796 千円 |
|------|-------------------------|------|--------|

事業の内容、成果等

●事業実施の背景・目的 ～こうして事業は始まった～

外国人比率が高く、かつ、長期間生活する見込みの外国人が多い当市では、日本人と外国人との間に「言葉と心の壁」が立ち上がり、地域住民間で様々な軋轢やトラブルが生じている。

この「言葉と心の壁」を崩すために、市が支援し市民により行われている、外国人など日本語を母語としない市民に対する日本語学習活動は、日本語ボランティアが増えない、学習者が少ない、日本語が上達しない、など多くの課題を抱えており、「言葉と心の壁」を崩すための効果的な日本語学習が実現できていなかった。

そこで、日本人と外国人との円滑な市民生活を創出するための効果的な日本語学習が、市民により継続的に運用できるようにするために、市民と協働で運用するための「駒ヶ根市 日本語学習システム」を構築し、日本語を母語としない市民に対する日本語学習を通じて、日本語学習に関わる人材を育成し、効果的な日本語学習の仕組みを普及させることを目的に事業に着手した。

●事業内容

・検討準備会(全 8 回)

…構築方法やシステム案についての検討、市の他に委員 3 人

・アンケート調査

…システム案の基礎資料とするための調査、日本人 200 人・外国人 484 人

・ゼロレベル日本語教室試行(全 15 回)

…システム運用の課題を発見するために、レベルチェック、教案作成、授業、レベルチェック、アンケートまでの一連の流れを試行により検証

・システム案説明会(全 5 回)

…既存の日本語教室の日本語ボランティアに意見を求めるための説明

●動き始めた「駒ヶ根市 日本語教育システム」

24 年度からはこのシステムに基づく日本語教室を開始。「市民と協働で運用する」という理念に賛同した約 20 名がボランティアとして名乗りを上げた。日本語教室の運営に携わった経験のある「日本語コーディネーター」を中心に教授方法や教材について議論を重ねた。ボランティアの中には「日本語教育を専門に学んだ経験がないが大丈夫か」と不安を口

にする方もいたが、周囲のサポートを受けながら、みんなで少しずつ準備を進めていった。

迎えた教室の初日には15名の学習者が集まった。事前のレベルチェックテストによって分けられた3クラスで、「病院で使える日本語」をテーマに授業スタート。お互いに緊張した雰囲気にも包まれていたが、日本語に関する真剣なやりとりも随所に見られ、あっという間に1時間30分が過ぎていった。



授業の様子



第1クールに携わった方々の寄せ書き

●今後の展望

日本語教室は1クール5回、年に4クール開催される。それぞれのクールで共通のテーマを1つ設けることになっており、24年度はこれまでに「病院」「買い物」をテーマに授業を行った。いずれも授業の前にボランティアは教案を作り、日本語コーディネーターと細部を打ち合わせた上で授業に臨む。学習者からは「きちんとしたカリキュラムがあるので、わかりやすい」と評価する声も上がっている。

課題としてはボランティア数の不足がある。「専門知識がなくても日本語を教えることができる」をウリにはしているが、経験不足を不安に感じ、尻込みする人も少なくない。また、昨今の景気の低迷によって求人が減ったため、市内の外国人数は減少傾向にあり、それに伴い接触できる機会も減っている。このため、外国人に対する効果的・効率的な広報も悩みのタネとなっている。

想定外のことも多く試行錯誤の連続だが、ボランティアの方々と協議しながらシステムの修正を重ねている。その先には市民が主役となった効果的な日本語学習システムの形があるはずである。道のりは長い、みんなで楽しく、多くの方々を巻き込みながら事業を展開していきたいと考えている。